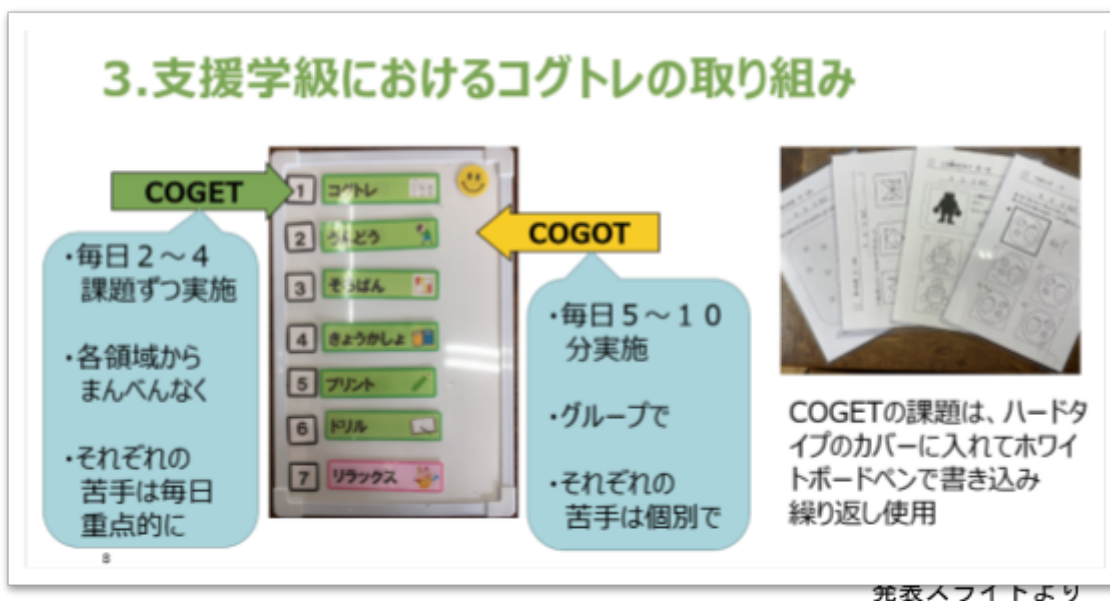


事例報告① 支援学級におけるコグトレの取り組み

大阪府和泉市立国府小学校 支援学級担任 多田 彩

児童A（小学校1年生男子）、児童B（小学校1年生女子）それぞれに、COGOT、COGETを用いてアセスメントを行いました。その結果、児童Aには、協調運動の苦手さ、「点つなぎ（写す）」「形さがし（見つける）」課題の苦手さがあることがわかりました。児童Bには、全体的な不器用さ、眼球運動の問題、「記号さがし（数える）」「点つなぎ（写す）」の苦手さがあることがわかりました。

①支援学級におけるコグトレの取り組み



②成果

6月と10月のアセスメントの結果を比較すると、児童Aは、苦手だった「点つなぎ」と「形さがし」の正答率が上がり、特に「点つなぎ」で成果が見られました。児童Bは、苦手だった「記号さがし」と「点つなぎ」で成果が見られ、特に「記号さがし」は、チェックしながら数えるという作業ができるようになったことで、正確に数えられるようになりました。

【児童Aの変容】	【児童Bの変容】
<ul style="list-style-type: none"> ・集中できる時間・内容が増えた。→姿勢の向上 ・連絡帳を写して書くことができるようになった。 ・ますからはみ出ないよう丁寧に書けることが増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの読み書きができるようになり、絵本を読むようになった。 ・指を使い10までのたし算ができるようになった。 ・転んで保健室へ行く回数が減った。

③課題

- ・なかなか行動面の変化につながらないところがあるので、引き続きトレーニングを継続し、適宜できるようになってきたことと苦手なことを見極め、トレーニングを組み立て直していくことも必要と考えています。
- ・現状、絵での場面理解が難しく、COGSTの実施があまりできていません。今後、COGSTをモチーフに場面の動画を作成するなど工夫して取り組んでみたいと考えています。